

歴代の三役

	町長	助役	収入役
初代	竹田一孝 自M22.5~至M23.3	鶴田直久 自M22.5~至M31.8	鶴田直久 自M27.5~至M31.8
2	丁廣之 M23.4~M27.4	小島惣太郎 M31.12~M36.1	椎葉貢 M31.8~M35.8
3	片岡政路 M27.5~M31.5	松本貢 M36.3~M37.3	西保 M35.9~M38.3
4	伊藤弘綱 M31.6~M31.7	鶴野文蔵 M37.9~M40.8	西保 M38.3~M42.3
5	鶴田直久 M31.8~M35.8	福本限 M40.9~T元10	森山八九郎 M42.4~T7.11
6	六車茂一郎 M35.8~M39.8	松崎磨 T元10~T13.10	千々岩義信 T8.2~S2.6
7	斎藤季格 M39.9~M43.9	福島安恵 T13.11.20~S11.2.22	山下弥熊 S2.10.10~S10.5.23
8	永里吉光 M43.9~T11.12.28	鶴野繁喜 S11.3.2~S13.5.17	鶴野繁喜 S10.8.15~S11.3.1
9	六車茂一郎 T12.6.18~10.6.17	志崎島安恵 S14.10.21~S22.5.16	福島安恵 S11.4.1~S12.12.24
10	斎藤吾 S10.6.18~22.1.3	鶴田宣尊 S22.5.17~S30.6.6	福島寅二郎 S12.12.28~S14.8.20
11	松崎磨 S22.4.8~30.4.29	竹田珍殊 S30.9.12~S34.9.11	篠原正之 S14.10.23~S17.11.6
12	斎藤吾 S30.4.30~36.6.1	松原兼義 S34.9.21~S42.9.20	松本金義 S17.11.6~S43.12.31
13	斎藤亀齡 S36.7.25~44.7.24	松本金義 S44.1.1~S44.12.31	長浜学 S44.1.1~S48.2.10
14	鶴田宣尊 S44.7.25~48.7.24	長浜学 S48.3.20~S48.7.24	丸田繁人 S48.3.20~
現	六車孝吉 S48.7.25~	諫山貢 S48.8.8	丸田繁人 S48.8.8

ものとの、ひとり者になつた喜作さんは、毎日を仕事に追われながら暮らしているうちに、年も押しまって、年の晩をむかえた。喜作さんは、前に山から運んでおいたせち木を、いろいろいせいよく、どんどんあきながらだばこの輪を吹いていた。天井からバラと煤が落ちて頭にかかつた。ひょいと天井を振り向くと、大きな蜘蛛がキラキラと眼を光らせながらスースー下りて来た。喜作さんは、この野郎とばかり、火のついでいるところの扉ではつと二打ちする。蜘蛛はたちまち風呂桶のような大きさとなり、ものすごい勢いで天井を巻き破り暗い夜空に消えて行つた。数日後、山に行った村人が大きなツルの木の下に、喜作やんの妻であつたお糸が死んでいるのを見つけて、大きさとなつた。

津奈木民話(五) 堀二雄

年代をふりかえって

ちなみに筆者は三十二年の九月蘇峰先生にはお目にかかりました。その時の模様を昭和三十二年十月号に載せました。文の最後に……私はひとり想う。先生は何をいつても九十才である。御気になられてからではござい。先生が御健康である今日、永く御健康であられるように神にお祈りして……書いた。先生はひと月もたぬうちにお亡くなりになつたわけ。

その次第が五九年に詳しく述べられている。蘇峰先生は九十五才(昭和三十二年十一月二日)でお亡くなりになつたので、この題字を書いて下さったのは御逝去の前の年であったわけ。

ちなみに筆者は三十二年の九月蘇峰先生にはお目にかかりました。その時の模様を昭和三十二年十月号に載せました。文の最後に……私はひとり想う。先生は何をいつても九十才である。御気になられてからではござい。先生が御健康である今日、永く御健康であられるように神にお祈りして……書いた。先生はひと月もたぬうちにお亡くなりになつた。

そこで筆者は三十二年の九月蘇峰先生にはお目にかかりました。その時の模様を昭和三十二年十月号に載せた。文の最後に……私はひとり想う。先生は何をいつても九十才である。御気になられてからではござい。先生が御健康である今日、永く御健康であられるように神にお祈りして……書いた。先生はひと月もたぬうちにお亡くなりになつた。

昭和四十年夏のペーロンは中止された。理由は舟が古くなつた。青年が出てしまつて舟に乗るもののがいなくなつた。そのとおりであった。しかし、ペーロンのないお盆はさびしかつた。カン・カン・カンという音とリズムが血の中にしみ込んでる津奈木町民には離れることを許さなかつた。そして町費で舟を造り、海岸部落の専有にせず、町内全部落のものとして復活した。

当時の新聞に、その発案者は教育長岡松社と書き立てられたが、実はその立役者は公民館主事であった浜本繁巳君であった。町議会の賛同を得るまでいろいろと闘争を繰り広げた。浜本君は津奈木ペーロンの功労者であることをここに明かにしておく。

昭和四十一年八月二十五日第一三八号「町ぐるみペーロン」[町長齊藤亀齡]の記事より

昭和四十年夏のペーロンは中止された。理由は舟が古くなつた。青年が出てしまつて舟に乗るもののがいなくなつた。そのとおりであった。しかし、ペーロンのないお盆はさびしかつた。カン・カン・カンという音とリズムが血の中にしみ込んでる津奈木町民には離れることを許さなかつた。そして町費で舟を造り、海岸部落の専有にせず、町内全部落のものとして復活した。

当時の新聞に、その発案者は教育長岡松社と書き立てられたが、実はその立役者は公民館主事であった浜本繁巳君であった。町議会の賛同を得るまでいろいろと闘争を繰り広げた。浜本君は津奈木ペーロンの功労者であることをここに明かにしておく。

昭和四十一年八月二十五日第一三八号「町ぐるみペーロン」[町長齊藤亀齡]の記事より

昭和四十一年八月二十五日第一三八号「町ぐるみペーロン」[町長齊藤亀齡]の記事より

昭和四十一年八月二十五日第一三八号「町ぐるみペーロン」[町長齊藤亀齡]の記事より

昭和四十一年八月二十五日第一三八号「町ぐるみペーロン」[町長齊藤亀齡]の記事より

昭和四十一年八月二十五日第一三八号「町ぐるみペーロン」[町長齊藤亀齡]の記事より

焼酎	酒のねだん	米1俵の値段
年度	一升円	年度 ねだん円
43	焼酎 350	20 220
43	酒 550	30 3,902
53	焼酎 700	40 6,401
53	酒 1,100	50 15,653

津奈木町予算額の推移(一般会計)

年度	予算額	決算額	
		歳入	歳出
20	332	373	308
25	17,256	15,225	13,688
30	41,798	42,001	39,027
35	62,752	61,911	60,703
40	126,246	127,713	118,601
45	304,193	282,990	269,022
50	952,552	912,589	900,290
51	1,198,700	1,180,700	1,159,526

歴代の教育長

氏名	在任期間
初代 鶴田宣尊	S27.11.1~S28.3.31
2 齊藤亀齡	S28.4.1~S36.7.18
3 岡松社	S36.8.1~S47.9.30
現 農中三澄	S48.3.26~

名木紹介(三)	場所	所有者	種類	樹齢	高さ	記述
天井裏の小蜘蛛さえ見えるよ	津奈木町食谷	丸田民也	葉と裏白の「コ」を	二百年前(推定)	三メートル	さける事の出来たツルの木の
したがまだしもんのお糸が、			を焼き、とらねかめから難を			お経を上げ
お連れてして来て、お糸の姿			はだんだん別なものに變つて、			お連れてして来て、お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			一匹の大蜘蛛となり、しかも			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			割れた類の傷口から血が流れ			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			越しするならわしとなつたと			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			云う。どうぞ悪いは悪いとして			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			御指導賜わりたい。			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			昭和五十三年三月号は二百			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			号である。これから三百、五千			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			百、千と永遠に津奈木と共に			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			力して「おもしろくて、ため			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			は人は読まぬ。人が犬に噛み			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			ついたで記事になる」という			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			われわれ編集委員は一層努力して「おもしろくて、ため			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			は読まぬ。人が犬に噛み			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			ついたで記事になる」という			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			われわれ編集委員は一層努力			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			して、町民から愛される公館報としたい。			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			昭和五十三年三月号は二百			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			号である。これから三百、五千			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			百、千と永遠に津奈木と共に			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			力して「おもしろくて、ため			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			は読まぬ。人が犬に噛み			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			ついたで記事になる」という			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			われわれ編集委員は一層努力			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			して、町民から愛される公館報としたい。			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			昭和五十三年三月号は二百			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			号である。これから三百、五千			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			百、千と永遠に津奈木と共に			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			力して「おもしろくて、ため			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			は読まぬ。人が犬に噛み			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			ついたで記事になる」という			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			われわれ編集委員は一層努力			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			して、町民から愛される公館報としたい。			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			昭和五十三年三月号は二百			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			号である。これから三百、五千			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			百、千と永遠に津奈木と共に			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			力して「おもしろくて、ため			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			は読まぬ。人が犬に噛み			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿			ついたで記事になる」という			お糸の姿
お連れてして来て、お糸の姿		</td				